

2008年6月25日

**メリルリンチとキャップジェミニが
第12回ワールド・ウェルス・レポートを発表**

**世界の富裕層個人の保有資産高は40.7兆米ドルに成長
- 富裕層個人の平均資産は始めて400万米ドルを突破 -**

**世界の富裕層人口は、1,010万人に増加;
インド、中国、ブラジルが最も高い伸び率に**

日本の富裕層個人の人口は2.2%増え、初めて150万人を突破

東京 6月25日 – 新興国市場における株式時価総額の拡大を原動力に、2007年、世界の富裕層個人¹が保有する保有資産高は9.4%増加し、40兆7,000億米ドルに達したことが、メリルリンチおよびキャップジェミニによって発表された第12回ワールド・ウェルス・レポート（米国東部標準時6月24日午前9時に発表済み）によって明らかになった。また、同期間に世界の富裕層個人の人口は6%増加し、1,010万人に達した。同時に、超富裕層個人²の人口は8.8%増加

¹主な居住用不動産を除いて、最低100万米ドル以上の純資産を保有する個人

²主な居住用不動産を除いて、最低3,000万米ドル以上の純資産を保有する個人

し、10万3,300人となった。本レポートの発行が始まって以来初めて、世界の富裕層個人の平均保有資産高が400万米ドルを超えた。

2007年、日本の富裕層個人の人口は2.2%伸び、151万人に達した。2006年の5.1%増から成長率は鈍化したものの、この増加は実質国内総生産（GDP）で1.8%の成長を示した経済環境によって牽引された。特に2007年の日本経済は、円安トレンドおよび海外にける旺盛な資本投資に支えられ、純輸出が堅調であった。

本レポートによると、2008年の日本経済に関してはいくつかの抑制要因が指摘されている。実質GDP成長の減速が財政状況の改善を阻害する、米国需要の減少が輸出に悪影響をもたらす、原油やその他の商品の高騰が輸入品価格および原材料費を押し上げると想定される、などである。

極端に転換したマクロ経済環境に特徴付けられるとおり、2007年はグローバル経済にとって転換期となる年であった。2006年から継続した勢いにより前半の数ヶ月は着実な成長を維持できたものの、年後半にかけて経済は過去に例を見ない不確実性に直面した。2つの代表的な富の創造要因である実質GDPおよび株式時価総額の面からは、2007年は世界的に見れば堅調に推移した。世界経済は2006年の5.3%成長から若干減速し、2007年は5.1%成長した。2007年は、前半は世界的な経済の成長が富裕層の拡大を後押ししたものの、年後半においては成熟市場における減速を、弾力性の高い新興市場経済が相殺した形となった。

新興市場およびBRIC諸国が牽引

新興国経済の高い成長は、主に好調な輸出セクターおよび旺盛な国内需要によって押し上げられた。地域別の富裕層個人の人口成長率の上位は、それぞれ15.6%、14.3%、12.2%を記録した中東、東欧、およびラテンアメリカであった。商品輸出の伸びと共に、各国の金融センターが、重要なグローバル・プレーヤーとしての国際的な認知を高めたことも、それらの経済が一段の拡大を果たす結果となった。

ブラジル、ロシア、インド、中国のBRIC諸国はその著しい経済成長および顕著な株式時価総額の拡大を背景に、2007年も引き続きグローバル経済において中心的な役割を果たした。

メリルリンチ・グローバル・ウェルス・マネジメント・グループ社長のロバートJ. マックキャンは、「今年のレポートでは、インド、中国、ブラジル等の新興市場において最大の富が生み出されたことを始め、2007年において引き続き富裕層個人の人口、および彼らが保有する資産がともに拡大したことが確認された。このトレンドが示唆するものは、ウェルス・マネジメント会社にとって、これらの新しい成長市場への参入がビジネス機会をもたらすことである

一方、それらの成長市場での成功は、それぞれの市場独特のニーズを満たすために、如何に既存のサービス、その提供方法、およびテクノロジー戦略などを市場ごとに調整し、テーラーメイド化できるかにかかっている。」と述べている。

インドは 2007 年、株式時価総額の 118% 上昇と実質 GDP 成長が 7.9% であったことから、富裕層人口が年間で世界最大の伸び率となる 22.7% 増加した。

中国の富裕層人口は世界第 2 位の増加率で、20.3% を記録した。株式時価総額が年間で 291% 上昇した一方、実質 GDP 成長も 11.4% を達成した。株価上昇と活発な IPO 活動により、上海取引所は時価総額で世界第 6 位の規模に成長した。

2007 年、富裕層人口の伸び率で世界 3 位は、19.1% の伸び率を記録したブラジルであった。同様に株式時価総額が年間で 93% 上昇し、実質 GDP 成長は 5.1% であったことが要因である。

地域別ハイライト

北米地域の成長は、特に 2007 年後半に起こった住宅市場の冷え込み、信用収縮および金融市場の混乱により鈍化した。米国の富裕層人口は 2006 年の 9.4% 増に比べ、2007 年は 3.7% の伸びにとどまり、303 万人になった。2007 年の米国の実質 GDP 成長は 2006 年の 2.9% 成長から 0.8 ポイント減り、2.1% の成長であった。

東欧の富裕層個人の人口は 2007 年に 14.3% 増加した。ロシアは 2006 年の経済成長率 15.5% から 2007 年は 14.3% に成長が鈍化したものの、国別の富裕層人口伸び率の上位 10 位に入っている。世界最大のガス輸出量を誇り、かつ世界第 2 位の石油生産国であるロシアは 2007 年、株式時価総額で 37.6% の上昇、実質 GDP 成長で 7.4% と堅調な拡大を記録した。

ドイツや英国を始めとする欧州の成熟市場では 2007 年、富裕層個人の伸び率が鈍化した。2007 年の英国の富裕層人口の伸び率は前年の 8.1% から 2.1% に下降し、49 万 5,000 人であったのに対し、代表的な総合株価指標である DAX が 2007 年欧州で最高の成績をであったドイツにおいても、2007 年の富裕層個人の人口の伸び率は 2006 年の 4.1% から 3.5% に鈍化した。DAX は世界の成熟市場の伝統的な株式指数の中で唯一 2007 年の上昇率が 2006 年を上回り、二桁の上昇を達成している。

ラテンアメリカ地域における富裕層個人の人口は 2007 年、12.2% 増加した。また保有資産高で 20.4% 増と、地域別成長率では世界最高を記録した。2007 年、民間資本の同地域への流入額は前年の 526 億米ドルから、2 倍超の 1,060 億米ドルに急拡大した。

中東地域の富裕層個人の人口は、過去最高の伸び率となる 15%増で、保有資産高は地域全体で 17.5%拡大した。原油先物相場の 57.2%の上昇に象徴される石油価格の高騰が、特に中東を中心とした石油輸出国の経済を押し上げた。

今後の見通し

短期的には顕著な不確実性があるものの、新興市場における力強い経済ファンダメンタルズ（基礎的条件）は、今後も高いレベルでの成長を持続すると見られる。2008 年は、新興市場の堅調と成熟市場の回復の均衡状態が継続する模様である。潜在的なリスクの側面が未だ不明確であるため、短期的な見通しについては流動的である。

概して、グローバル経済は二つの顕著な障害物を克服する必要がある。成熟市場における成長阻害要因と新興市場における高いインフレ・リスクである。これらの課題に如何に対応するかで、世界の富裕層個人の成長の見通しが決まってくる。2007 年の結果と昨今の世界市場の推移を考慮すれば、本レポートは富裕層個人の保有資産高は年率 7.7%の速度で成長し、2012 年までに 59 兆 1,000 億米ドルに達すると予測する。

#

注 1 . 調査方法

ワールド・ウェルス・レポートは世界の 71 カ国を調査対象としており、世界全体の国民総所得の 98%超、株式時価総額の 99%を網羅している。

メリルリンチ/キャップジェミニの調査チームは、1980 年代にメリルリンチに対するコンサルティング業務を通じて開発されたキャップジェミニ・ローレンツ曲線手法を用い、富の規模とその成長を推定している。同手法は、マクロレベルで富裕層の金融資産を算定するために毎年更新されている。

この分析モデルは二段階で構成される。まず国別に富の総額を推定し、次にその国の成人人口における富の分布状況を推定する。国別の富の総額は、国際通貨基金や世界銀行などの機関が公表している様々な国民所得統計類を用いて、毎年の国民貯蓄を算定し、それに基づいて推計される。長期間にわたってこの数値を加算し、その国の蓄積された金融資産を求める。こうして簿価ベースの金融資産が求められる。金融資産の最終的な数字は、株式資産の市場価値が反映されるように、世界の株価指数に基づいて調整される。

成人人口における富の分布状況は国ごとに異なるため、富と所得の既知の関係に基づき、成人人口における富の分布状況を推定する。所得分布データは、世界銀行、グローバル・インサイトおよび各国の国民統計から入手している。それらのデータにローレンツ曲線を当てはめ、各国ごとに成人人口における富の分布状況を把握する。富の全体に占める金融資産の割合を求めるために、データが入手できる国々の統計値を用いて、それらの国々の金融資産の額を計算し、こうして求めた結果を（データが入手できない）その他の国々に当てはめている。

注2. 2008ワールド・ウェルス・レポートは、以下のURLよりダウンロードが可能です。
www.capgemini.com/worldwealthreport.

メリルリンチとは

メリルリンチは、世界40ヶ国・地域に拠点を擁し、顧客からの総預かり資産が約1.6兆ドルに上る世界有数の総合金融サービス会社である。幅広い資産クラスの証券、デリバティブの売買や引受けにおいて世界のリーダーとなっているほか、各国の企業、政府、機関投資家、個人などに戦略的アドバイザリー・サービスを提供している世界有数の投資銀行である。また、メリルリンチはブラックロックの約5割を所有している。ブラックロックは世界最大級の上場資産運用会社であり、運用資産残高は1兆ドルを超える。メリルリンチの詳細についてはwww.ml.comで知ることができる。

キャップジェミニとは

キャップジェミニは、コンサルティング、テクノロジー、及びアウトソーシング・サービスを提供する世界最先端の企業として、キャップジェミニは顧客がテクノロジーを通じて自らを変革し、業績を上げていくことを可能にします。コラボラティブ・ビジネス・エクスペリエンスと名付けた独自の手法、および競争力のある価格で正しい経営資源を正しい場所において提供するグローバル・デリバリー・モデル、Rightshore®を通じて、顧客が高水準の業績を達成する自由度を上げるための洞察や能力を提供します。2007年の世界全体の通期収益は87億ユーロで、従業員数は83,000人。

#